

日本のファンタジー

『炎のタペストリー』

乾石 智子/著 筑摩書房

〈西ノ庄〉のエヤアルは、幼い頃、禁じられていた水と火の魔法を解放して森一つと山一つを焼き払ってしまう。呆然とするエヤアルの前に現れ、胸の中の魔法の若木を引きちぎったのは炎の鳥だった。以来魔法を失い、不忘の呪いを身に受けたエヤアルは、13歳の時にカンカ砦に徴用される。その記憶力ゆえに、王から“しゃべる祐筆”、間諜として王弟に預けられたエヤアルは、いやおうなく王の世界を統べたいという野心に巻き込まれていく。少女の旅と成長、魔法と世界の成り立ち…心にしみる王道の異世界ファンタジー。

『レイン』～雨の日に生まれた戦士

吉野 匠/著 アルファポリス

強国ザーマインとの戦いの最中、味方の裏切りによって王が討たれたサンクワール。事情により謹慎となっていた上將軍レインのもとに、城を脱出した王女・シェルファが駆けこんでくる。戦友・ラルファスも合流し、大国との戦いが始まる。底知れぬ強さと頭脳を持ち、でもどこかマイペースなレインと、そんなレインを一途に信じ、芯の強さと揺るがない覚悟を秘めたシェルファ。飾らず、まっすぐな二人の周りには自然と人が集まってきます。勝利を手にするため、最後に戦場に立っているための壮大な喧嘩の始まりです。

『Arknoah(アークノア)』

乙一/著 集英社

アールとグレイの兄弟は学校でいじめられ、つらい日々を送っていた。ある日、『アークノア』という不思議な絵本を見つける。自分たちに似た子がいると思ったら…絵本の中の世界に入り込んでいた！どうやったら、元の世界へ帰れるのか。やがて世界に怪物が現れ、自分たちが怪物を倒さないと帰れないことを知る。だが、怪物には秘密があった。少しダークなファンタジー。

今年は何年ですね。どんな一年になるでしょう。

新年一回目の特集は、「日本のファンタジー」です。

いろいろなファンタジーをどうぞ！

『時をかける眼鏡』

榎野 道流/著 集英社 集英社オレンジ文庫

医学生の新藤遊馬は、夏休みに訪れた母親の故郷・マーキス島で手に取った本の光に包まれて、過去のマーキス島に飛ばされた。いきなり事件に巻き込まれて牢に入れられた遊馬は、王殺しの疑いがかけられている皇太子・ロデリックと出会う。遊馬はどうやら、ロデリックの無実を証明するために呼ばれたようで…。いきなり知らない場所、それも過去に飛ばされたというのに遊馬の落ち着きっぷりには驚かされます。もてる知識、技術のすべてを使い、真実を導き出すため、家族の絆を取り戻すための試練に立ち向かいます。

『英国幻視の少年たち』

深沢 仁/著 ポプラ社 ポプラ文庫ピュアフル

イギリスへ留学し、叔母の家に居候しながら大学へ通う皆川海は、ある日道に迷い、出会ったランスに妖精のせいだと告げられる。ランスは自分を英国特別幻想取締報告局の一員で、皆には妖精を見ることができると言う。実は、その事は皆にとっては触れてほしくない、隠したいことだった。だが、叔母・マリコも何か力を持っているらしく、妖精・スーに懐かれ、皆はいやおうなしに妖精がらみの事件に巻き込まれていく。イギリスの妖精たっぶりの、不思議なファンタジーです。

今も人気のファンタジーを二作紹介します

『精霊の守り人』

上橋 菜穂子/著 偕成社

女用心棒バルサは、偶然新ゴゴ皇国皇子ある日、チャグムを助けた縁でチャグムの護衛となる。命をねわれるチャグムの秘密とは？壮大なファンタジーの開幕！

『空色勾玉』

荻原 規子/著 徳間書店

闇の巫女姫・狭也は、輝の御子・月代王と出会う。その出会いが始まりだった。神々が地上を闊歩する古代の日本が舞台。勾玉シリーズ第1作。